



やらまいか

クラブテーマ：転換点ポスト平成そして令和をデザインしよう

会長/伊藤正幸 幹事/縦山修一 会報委員会/宇野秀幸・加藤雅美 例会/毎週火曜日 12:30 豊川商工会議所
事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889 HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

本年度第30回 通算1606回 2020年2月25日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	2/3 修正出席率
		68名	36名	60%	100%

ゲスト：税理士 白柳 孝さん ビジター：(なし)

★会長あいさつ

伊藤正幸会長



こんにちは。
本日はマスク
をしての会長
挨拶です。大
沢パスト会長
より、会長が
模範を示さな
いといけない

と貴重なご意見を頂きました。

新型コロナか新型クラウンかと笑い話で済めばよいと思っておりますが、この新型肺炎の関係で、インフルエンザ治療薬のアビガンは、富山で作っている特効薬で、これを治療薬として検討しているようです。少し安心をしています。

本日の講師の白柳先生とは、古くからのお付き合いがあります。税理士法人とビーブレーションという経営コンサルタント会社も経営されています。私たちも複眼で物事を見ていくという必要があるかと思えます。今日の先生のお話を聞いたら、自分も勉強しつつ、お手元の資料をご子息の方にお渡し頂ければと思います。先生の著書が「今の相続は日本と家族を潰す」というのがあります。現役税理が自身の経験をもとに家族繁栄につながる相続を提言されている著書です。

今後、ロータリーの例会等も中止というようなことにもなるかもしれません。そうならないように良いと思っております。

★幹事報告

縦山修一幹事

例会臨時変更のお知らせ
緑の募金のプレートについて
IMのお礼状について
豊川 RC60 周年誌の回覧について
新型コロナウイルスの影響による今後の例会開催について

★委員会報告

雑誌広報委員会 竹生和史委員長
ロータリーの友2月号の紹介
次年度理事会 太田稔次年度幹事
次年度理事役員会開催について

★社会奉仕委員会担当例会

委員長あいさつ

廣田篤委員長



本日は、社会奉仕委員会の担当例会です。講師に白柳孝さんをお招きして卓話をして頂きます。

講師のプロフィールを紹介します。現在、税理士法人あけぼのの顧問をされています。高校卒業後に会計事務所に就職されて、会計事務所に勤務しながら、コンピューター専門学校、愛知大学、税理士専門学校に通われました。税理士試験合格後の昭和58年10月に、白柳経営会計事務所を開業され、平成26年10月に現在の事業所に組織変更されました。本の執筆もされて

おられます。皆さん、ご清聴宜しくお願ひします。

外部講師の卓話

税理士 白柳孝氏



本日は、卓話の時間を頂きましてありがとうございます。

どうして、この本を書いたかと言いますと、昨年で

私は70歳になりました。70歳で税理士の仕事をやめようと思っていました。今は代表をおりて顧問になっています。仕事としては、相続の仕事が多くやりましたが。今の相続のやり方を見ていると、どうしたら財産を上手に分けることができるのか、税金はどうしたら安くなるのか良いのか、ということばかりをやっています。その結果、何が起きているかということ、家がバラバラになって、兄弟喧嘩や親子喧嘩が起ってきます。法律通り分割することによって徐々に徐々に日本の家族と社会が壊れていく、この壊れていくのを何とかしたいと思っていました。以前から、ホームページなどに載せるように、色々執筆をしていました。それを幻冬舎の営業マンが見つけて、本を出さないかと話がありました。70歳で仕事をやめるから記念に出したいということで、2年ぐらいかけて原稿を書いたのが、今回の本です。2019年の11月19日に発売になりまして、Amazonの相続贈与部門では1位になりました。特殊な本ですから、めちゃめちゃ売れているわけではありません。

皆さんに是非聞いていただきたいことは、今の相続が本当に良いことかどうかということです。今の相続の制度では、やればやるほど家族がバラバラになりなります。親子関係も変になって、地域社会もが壊れます。地域社会が壊れたら日本も壊れます。確実に日本という国が弱くなっています。家族という一番身近なコミュニティを守らなければいけないものが壊れていきます。壊れていく仕組みが、民法にあったのです。

イソップ物語の話をして。3頭のウシがいました。百獣の王のライオンでも、3頭のウシが団結して向かってきたら勝てません。何とか3頭のウシをバラバラにしようと考えます。1頭のウシに近づいて、他のウシが悪口を言っていたといい、別のウシにも他のウ

シが悪口を言っていたと言いました。そうするとウシたちは、疑心暗鬼になり、3頭がバラバラになっていきます。そのバラバラになったウシの1頭を襲います。でも他のウシは助けようとしませんでした。そして、3頭のウシはライオンに食べられてしまいました。

今の家族の状況が、まさに3頭のウシと同じ状況になっています。会社も同じです。自分の勤めている会社を大事に思っていない社員が増えています。

明治維新から第2次世界大戦まで、鎖国後たった73年で日本は世界と戦いました。武器もなにもなかった日本が、たったの73年でゼロ戦をつくって、戦艦大和を作りました。こんな国が他にありましたか？ そのぐらいに国が強かったんです。国民一人一人の能力も結束したら、すごい力があつたんです。そんな日本が今どうなっているかを是非考えて頂きたいのです。

京都大学の土屋由香教授は、昭和22年の民法改定の目的として、日本が二度と世界の脅威にならないようにするために、民法の改定が行われたと言っています。

NHK元NY総局長の日高義樹さんの書かれた「アメリカの本音」という著書の中に、日本の相続は、兄弟均等に分けるようになっていく。でも、アメリカの相続はなっていないと書かれています。アメリカとヨーロッパも長子相続なのです。均等相続にしたのはGHQの占領政策で家族がバラバラになる作戦が裏にあったと書かれています。

兄弟均等なので、長男も次男も長女の同じです。長男以外の人には、もらえて当然だと思っています。これを何とかしないと大変です。特に皆さんのような経営者は、長男か会社を守ってくれる人に財産をたくさん相続させたいと思います。あげたいです。会社を分割したら続いていきません。民法が会社の弱体化を誘発させているのです。完全におかしいです。我々は平等主義を教えられてしまったから、平等が当然だと思っています。だから国はどんどん衰退していきます。企業が株式を分ければ分けるほど内紛になります。だから100年企業は、どんどんなくなっていく。

我々が相続をするには、法定相続割合を基準とします。兄弟3人なら、3分の1だと思われていますが、そうではありません。話がまとまらなかつたら、法定相続割合で決めなさいとなっています。遺産分割の仕方は、民

法 906 条で決められています。第 906 条【遺産の分割の基準】「遺産の分割は、遺産に属する物又は権利の種類及び性質、各相続人の年齢、職業、心身の状態及び生活の状況その他一切の事情を考慮してこれをする」とあります。ですが、ほとんどの税理士、弁護士等は、これを無視です。裁判で争っても無視です。だから喧嘩になります。これを是非考えて頂きたいのです。

相続の中で、特別受益というのがあります。これは、いざ相続するときに、親が活着しているときに何らかの恩恵を受けたので、財産分与するときに、その時の恩恵分を戻せ出せということです。そんなの無理です。昔のことを言い出したら、絶対に喧嘩になります。

事業経営をやっている場合に、事業を受け継ぐ人が多くもらわないと経営なんてできません。でもそんなの無視をして、均等相続だと言い出したら喧嘩になります。

お父さんが亡くなって、残されたお母さんの介護はどうするのか。介護にはお金が掛かります。それだって無視です。先祖の供養だって無視です。未来を考えず相続日現在で均等なのです。

わざわざ喧嘩になるように法律ができていたとしたら、今の相続で何故もめるのかということが分かります。このことを日本中の誰かに伝えないといけないと思って、この本を書きました。

梅棹忠夫さんの著書の「文明の生態史観」という本に、文明が発達したところと発達しないところの相続の方法割合が書かれています。日本（戦前の）と西ヨーロッパは長子相続制でした。ところが、中国・インド・イスラム圏は均分相続です。封建社会は、ヨーロッパも日本も長子相続で、これによって資本の蓄積が出来ました。現在、先進国と言われている国は、もともと封建社会です。資本の蓄積によって、近代社会になったわけです。均分相続では資本の蓄積が出来ず先進国にはなれなかったのです。でも、封建社会が悪かったと学校では教えているのです。

住宅公団は、日本の文化を伝承させません。子どもたちが結婚したら、同居しなくて当然という風潮にしました。アパート・マンション・集合住宅には、仏壇神棚を置くスペースがありません。合掌合唱をさせない、神仏や先祖を祀らないように設計されているのです。

世間は敵がいっぱいで、身内で仲間づくり

をしないと、世の中の荒波で生きていきません。良い家というのは、みんな血縁関係で守られています。これをバラバラにしようとするのが、民法の問題です。そして、また家族をバラバラにするのが、家族葬なのです。親戚や縁者を呼ばないので、縁をどんどん切っていくのが家族葬です。

戦後は社会がバラバラになるように仕向けられてしまいました。今大事なことは本当は、経営者の皆様さんが、何が何でも自分の会社を守ってください。結果として日本を守ることに繋がってくると思います。是非、相続だけではなくて、子どもたちをどのようにするか、家族葬や墓仕舞いをどうするか、良く考えてください。

日本で一番長く続いている家族は、天皇家です。天皇家の菩提寺は京都の泉涌寺です。ここに代々の天皇がお祀りしてあります。代々の天皇の祥月命日法要を行っています。日本の代々続いている家は、先祖を大事にして、子々孫々に伝えているのです。今の世の中は、費用が掛からないからと家族葬をやっています。これでは家が潰れてしまいます。これらのことを考えて、相続対策は、今からがやるのが大事です。ご清聴ありがとうございました。

★ニコニコボックス

山城康司会員 入会記念日を祝って頂き
石黒貴也会員 //

★国際ロータリーニュース

新型コロナウイルスによる影響について

現在ロータリーでは、新型コロナウイルスの状況を注意深くモニタリングしています。

6月6～10日に米国ハワイのホノルルで行われるロータリー国際大会に関して、現時点で特に変更はありません。国際ロータリーは世界保健機関(WHO)の勧告に従っており、WHOは最近の声明で「現在入手可能な情報に基づき、旅行や貿易の制限を推奨しない」としています。

ロータリーは今後もウイルスの状況を注視し、WHO、米国内務省、米国疾病対策センター(CDC)による勧告に従い、必要に応じてロータリー国際大会の計画を調整していきます。ロータリーは出席者の健康と安全を最優先し、出席者を保護するために必要なあらゆる予防措置を講じます。

会報担当：宇野秀幸会員・加藤雅美会員